

図 2-4-3 (1) 地下水水位変動量分布図

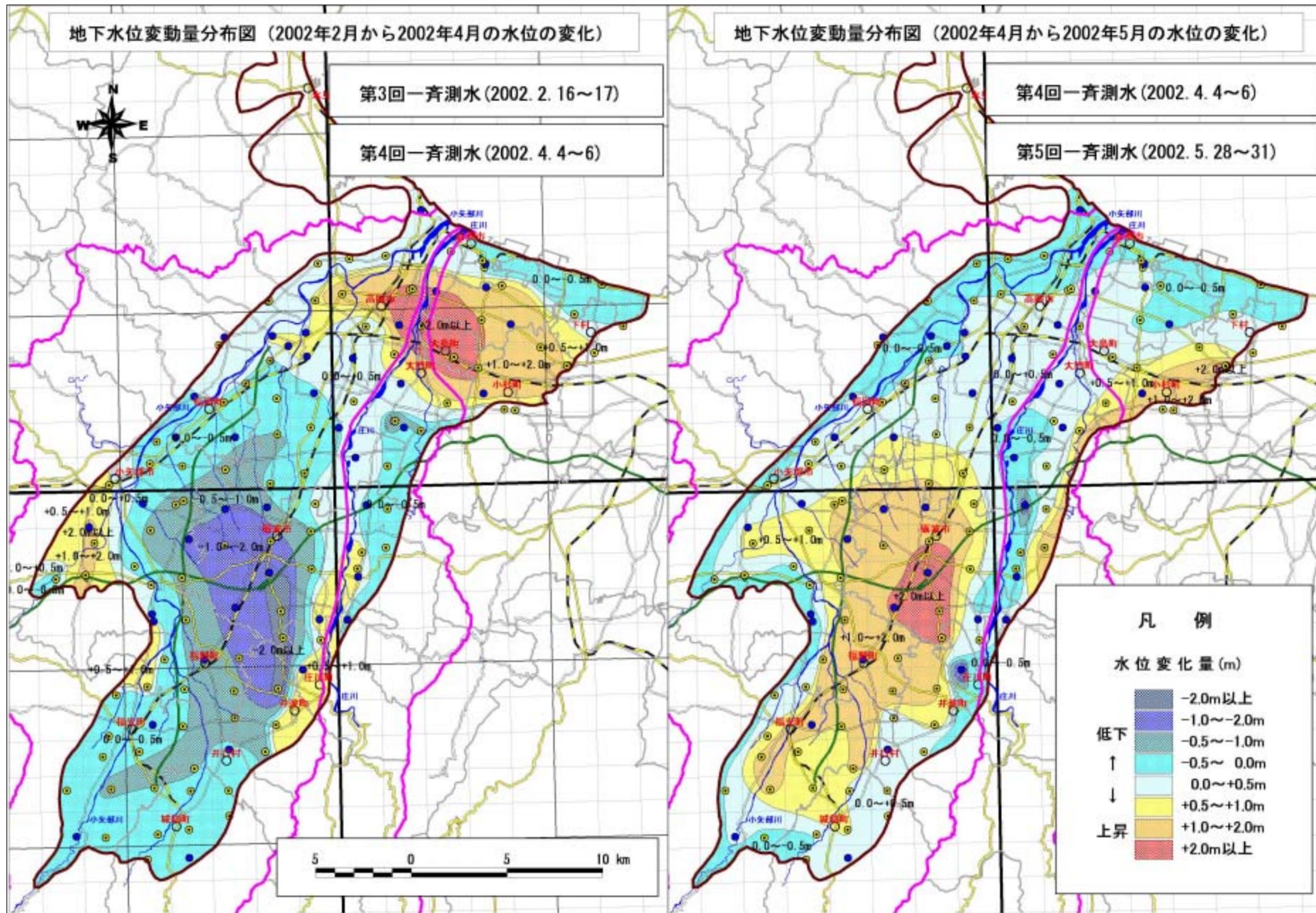


図 2-4-3 (2) 地下水水位変動量分布図

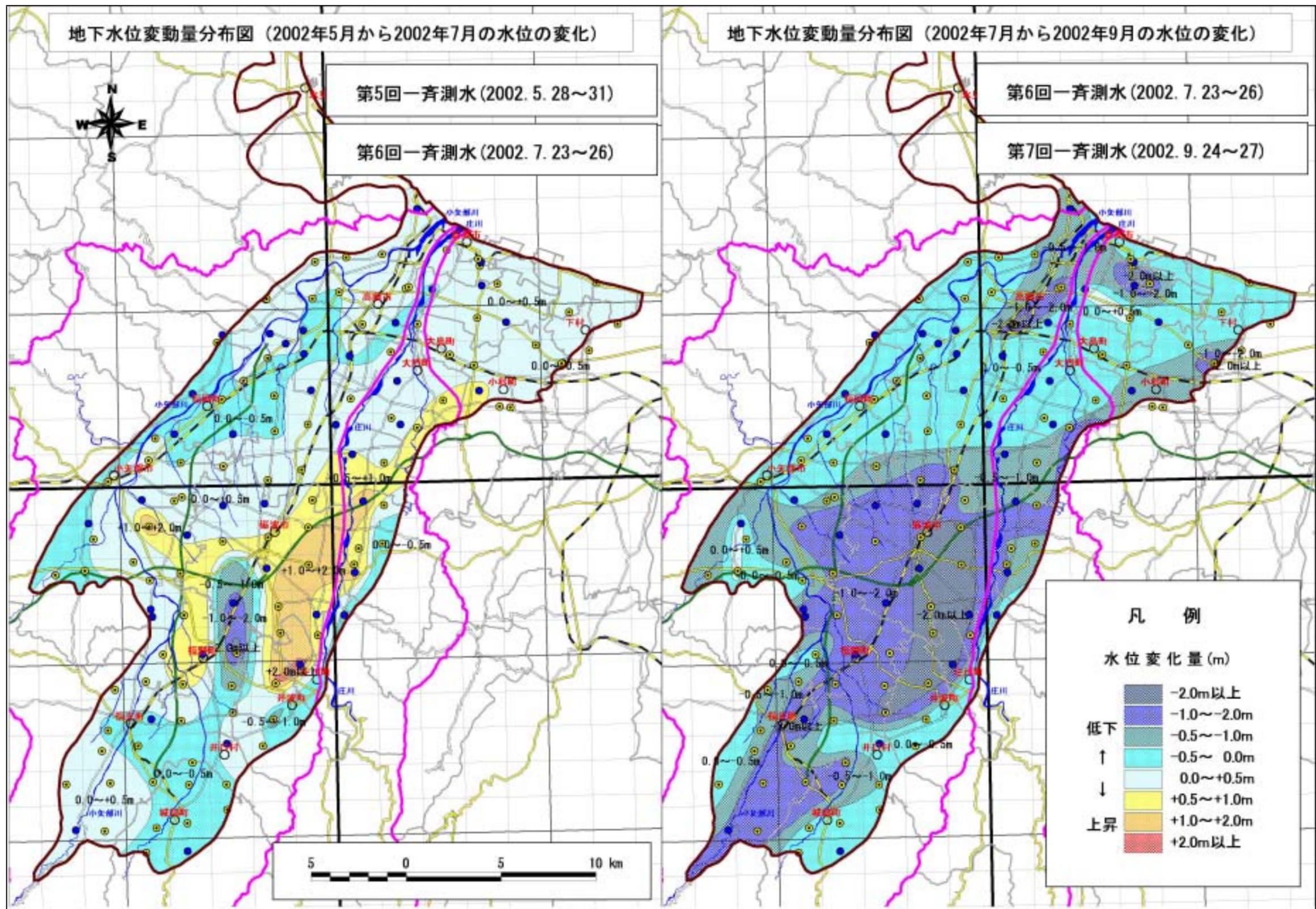


図 2-4-3 (3) 地下水水位変動量分布図

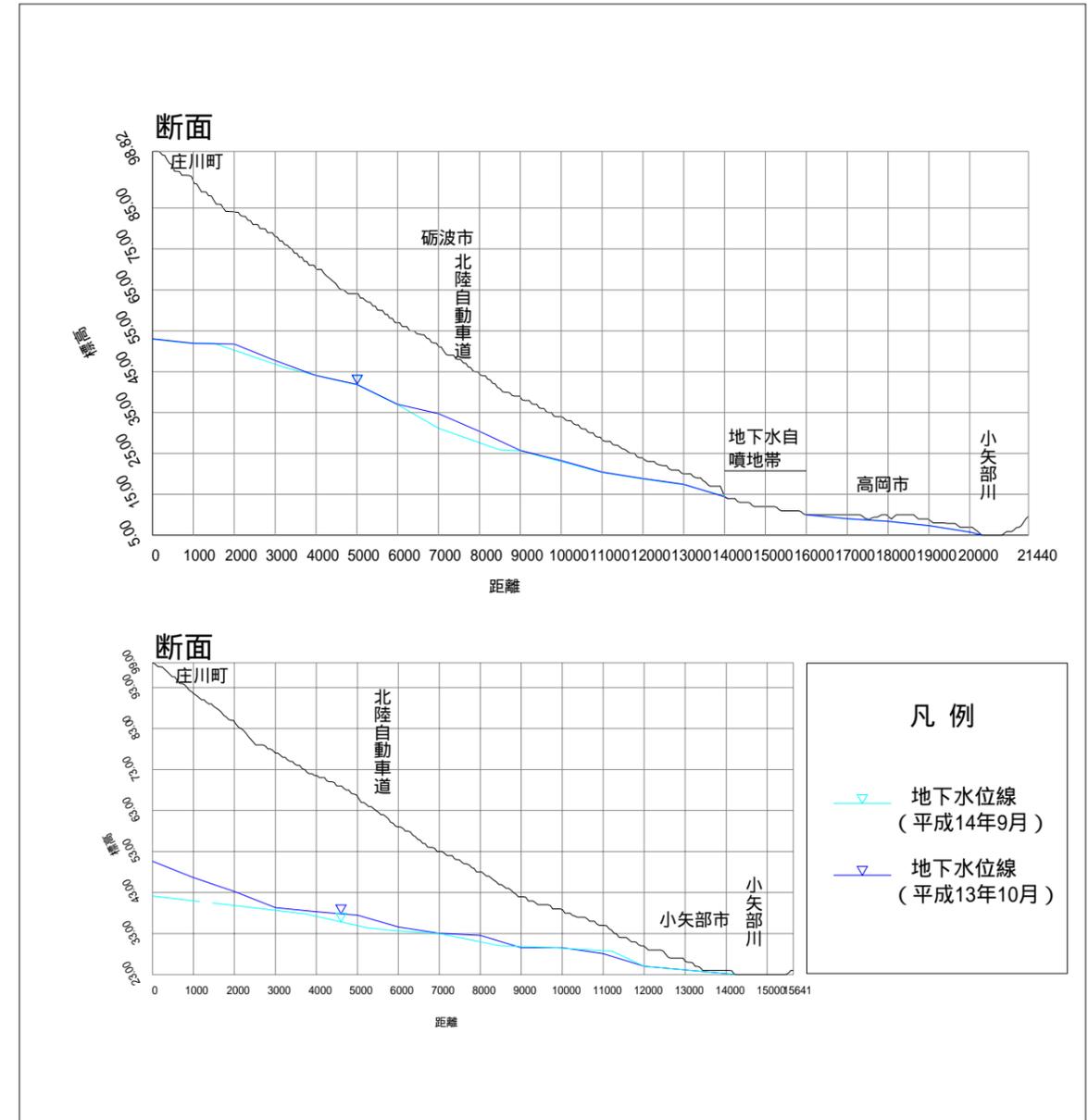
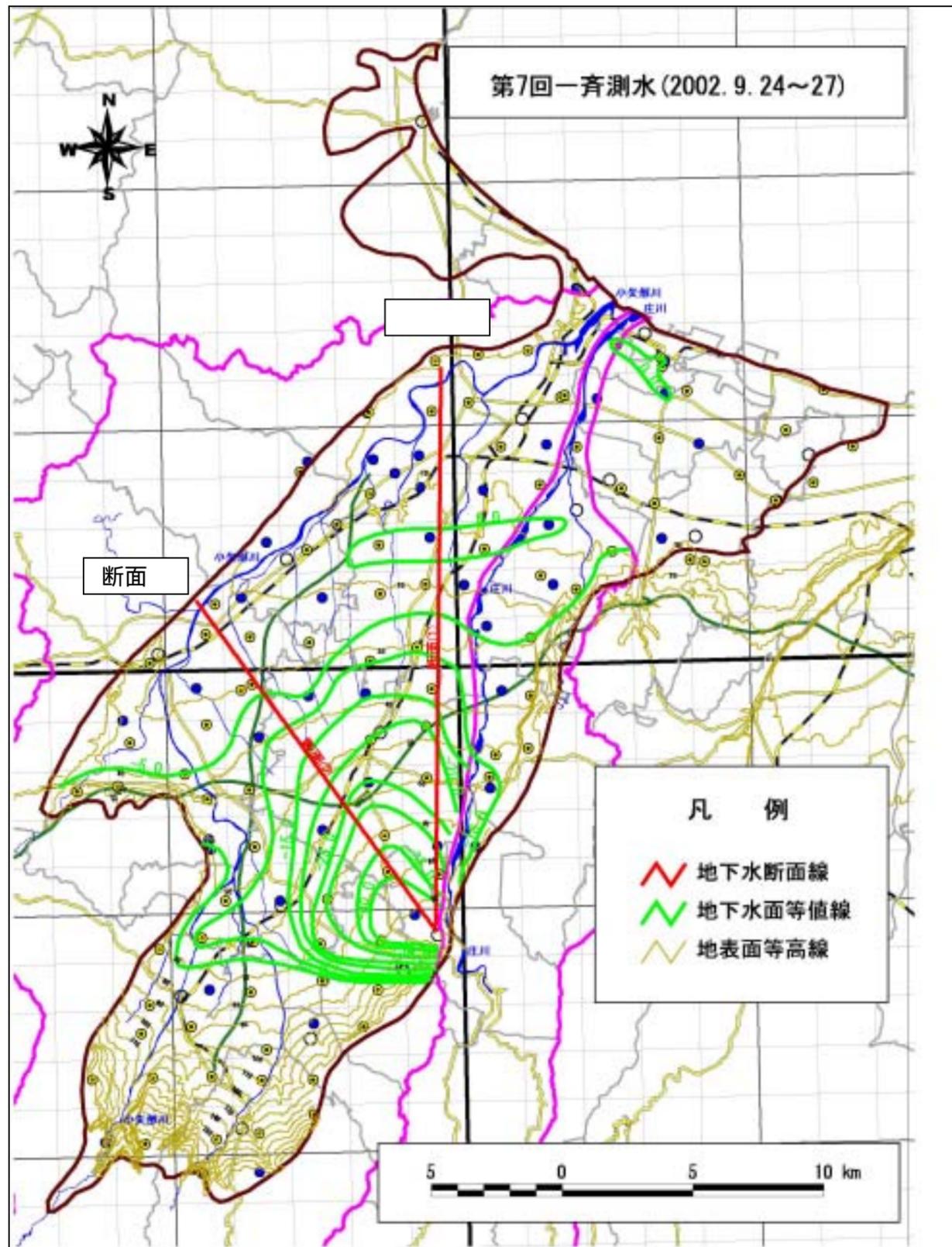


图 2-4-4 地下水等深度线图

八) 電気伝導度の平面分布状況

一斉測水調査に併せて井戸水の簡易水質（水温、pH、電気伝導度）を測定した。この内電気伝導度の平面分布状況を図 2-4- に取りまとめた。

庄川扇状地の地下水の電気伝導度は、全体としては 10 ~ 25(mS/m)の値を示すすが、小矢部川上流域及び扇状地内の庄川沿いには 10(mS/m)以下の低い値を示すゾーンが帯状に認められる。

一方、下流沿岸部の射水低地では塩水侵入の影響を受けて 500 ~ 1000(mS/m)以上の高い電気伝導度を示している。また、小矢部川本川沿いの井戸では 30 ~ 50(mS/m)の値を示しており、塩水遡上により庄川に比べて上流部まで近傍地下水の電気伝導度が高い傾向にある。

なお、庄川右岸・射水低地の大島町から大門町にかけては、周辺に比べてやや高い電気伝導度（30 ~ 50(mS/m)）を示すゾーンが分布している。

このような電気伝導度の平面分布形態は、年間を通して殆ど変化しない。そして、全体としては庄川から小矢部川（の下流）に向かって地下水の電気伝導度が徐々に高くなる傾向がある。

以上のことは、地下水位等高線図から読みとれる「庄川から小矢部川に向かう地下水流動」とも概ね整合したものとなっている。

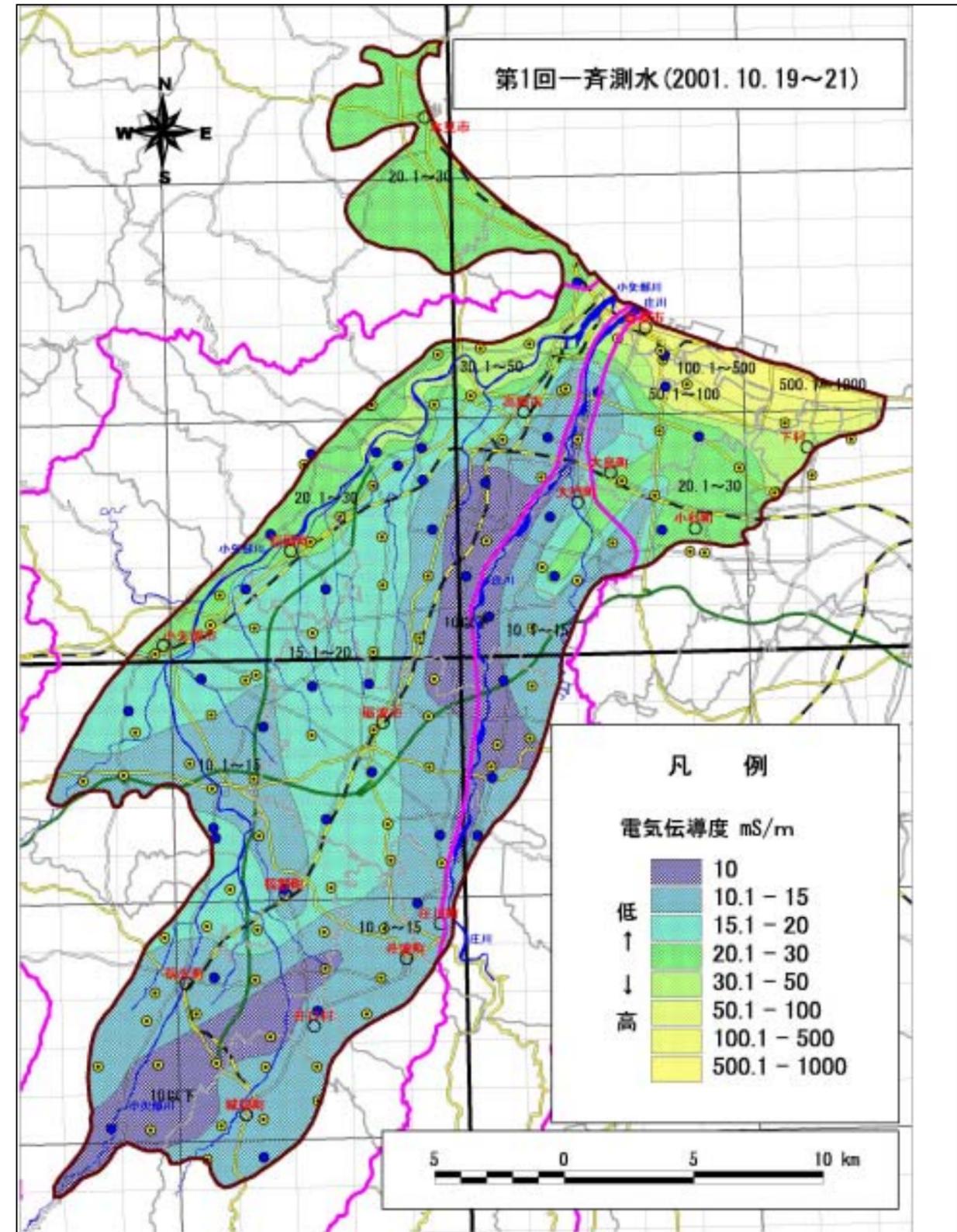


図 2-4-5 (1) 電気伝導度等値線図

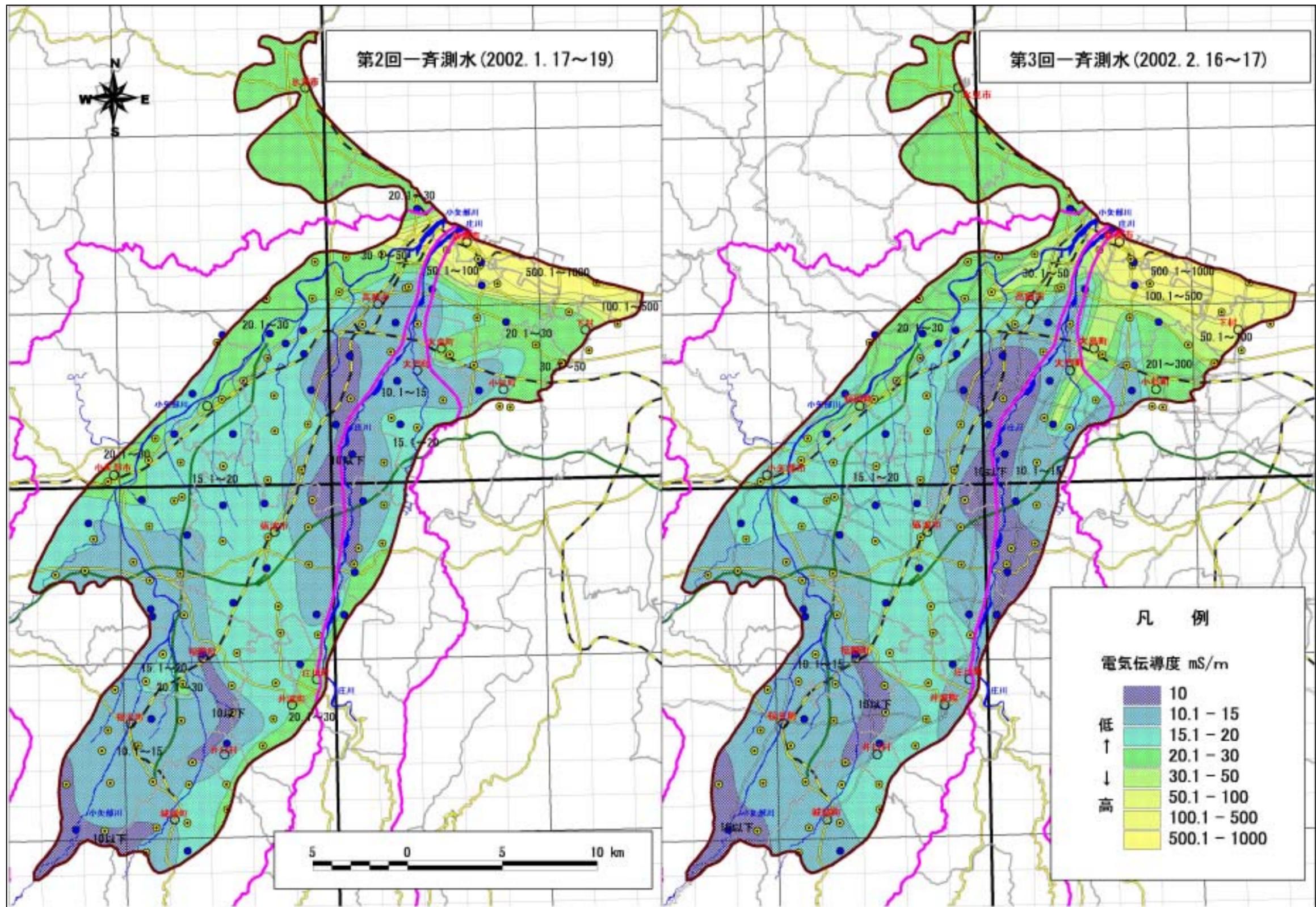


图 2-4-5 (2) 電気伝導度等値線図

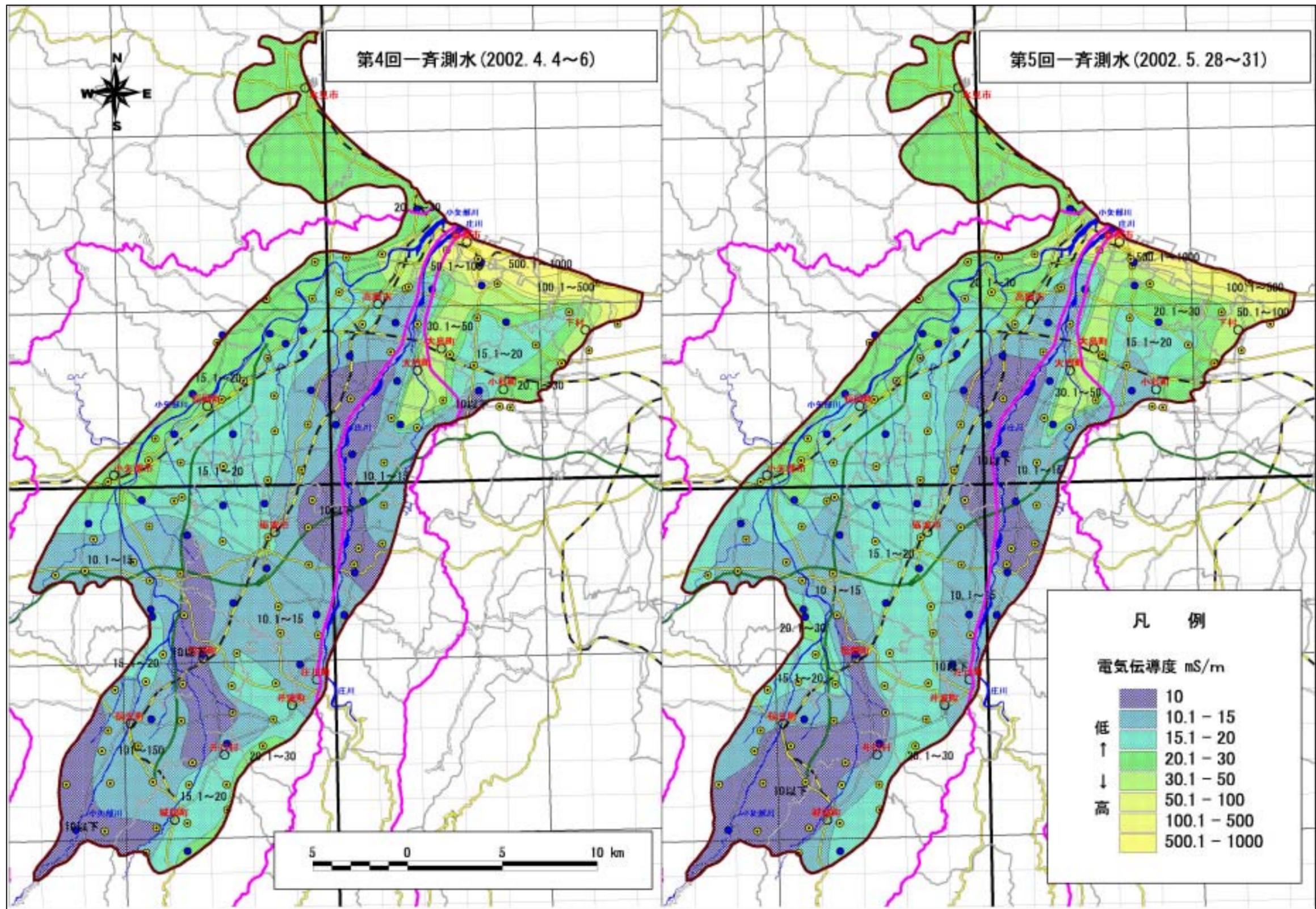


图 2-4-5 (3) 電気伝導度等値線図

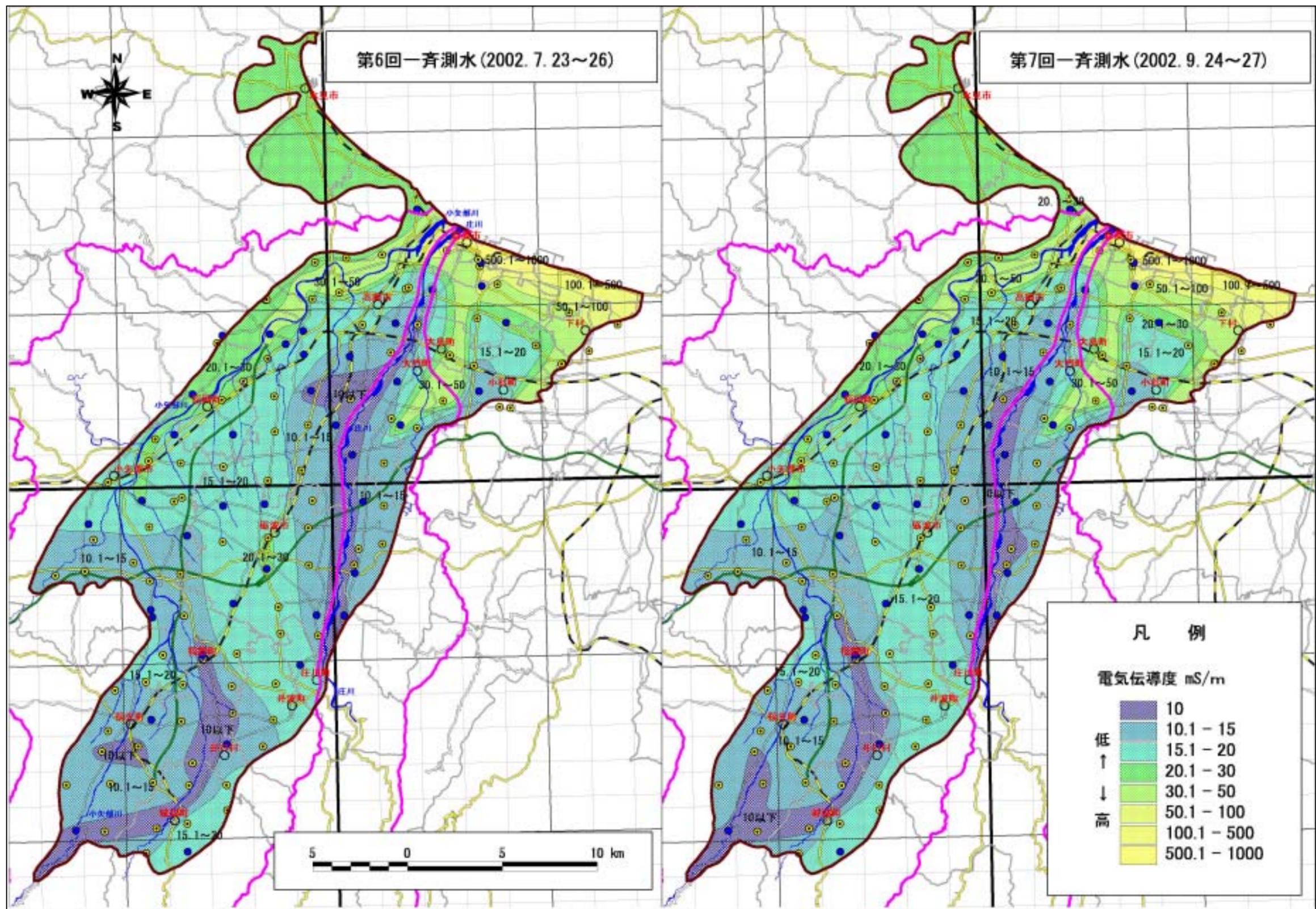


图 2-4-5 (4) 電気伝導度等値線図

(2) 地下水横断調査

庄川と小矢部川を結ぶ東西方向の3断面で井戸及び河川水(41ヶ所)を対象とした測水調査を実施し、地下水と河川水の交流について検証した。

測定ヶ所は図 2-4-6に示す上流、中流、下流の3測線で、前述した一斉測水井戸を含め1kmに1ヶ所程度のデータが得られるようにした。調査時期は下記の2回である。

第1回目：平成14年2月23日～25日

第2回目：平成14年7月25日～26日

調査結果を図 2-4-6 地下水断面図に示す。庄川扇状地域の河川水と地下水の関係は以下のように特徴付けられる。

最上流のA断面では、庄川左岸から海尻川にかけて河川水面と地下水面の乖離が見られる。特に庄川近傍では25～30mと大きく、庄川河川水と地下水が縁切りされている状況が読みとれる。

中流域のB断面では、河川水面と地下水面の乖離は見られない。全体としては庄川から小矢部川にかけて地下水のポテンシャルは低くなり、小矢部川に向かう地下水の流れが読みとれる。

下流域のC断面では、庄川、千保川、祖父川、小矢部川等の河川近傍で地下水面の方が河川水面よりも高いことが確認され、河川への地下水流出が起きていることが分かる。

～の河川水と地下水の関係は、夏期・高水位期に実施した第2回目の測水結果でも同様であった。なお、2月時の地下水位が融雪の影響によって夏期と同程度に高かったため、両時期の地下水位に殆ど差異は認められなかった。

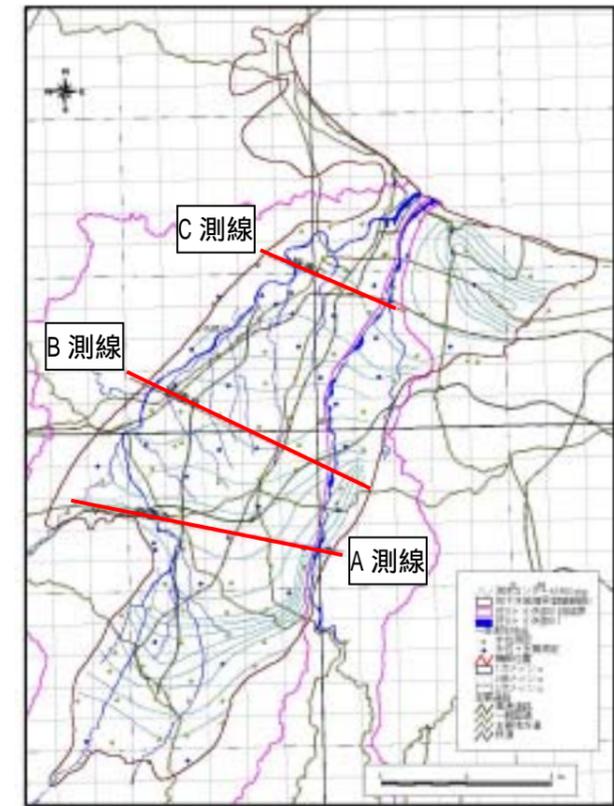
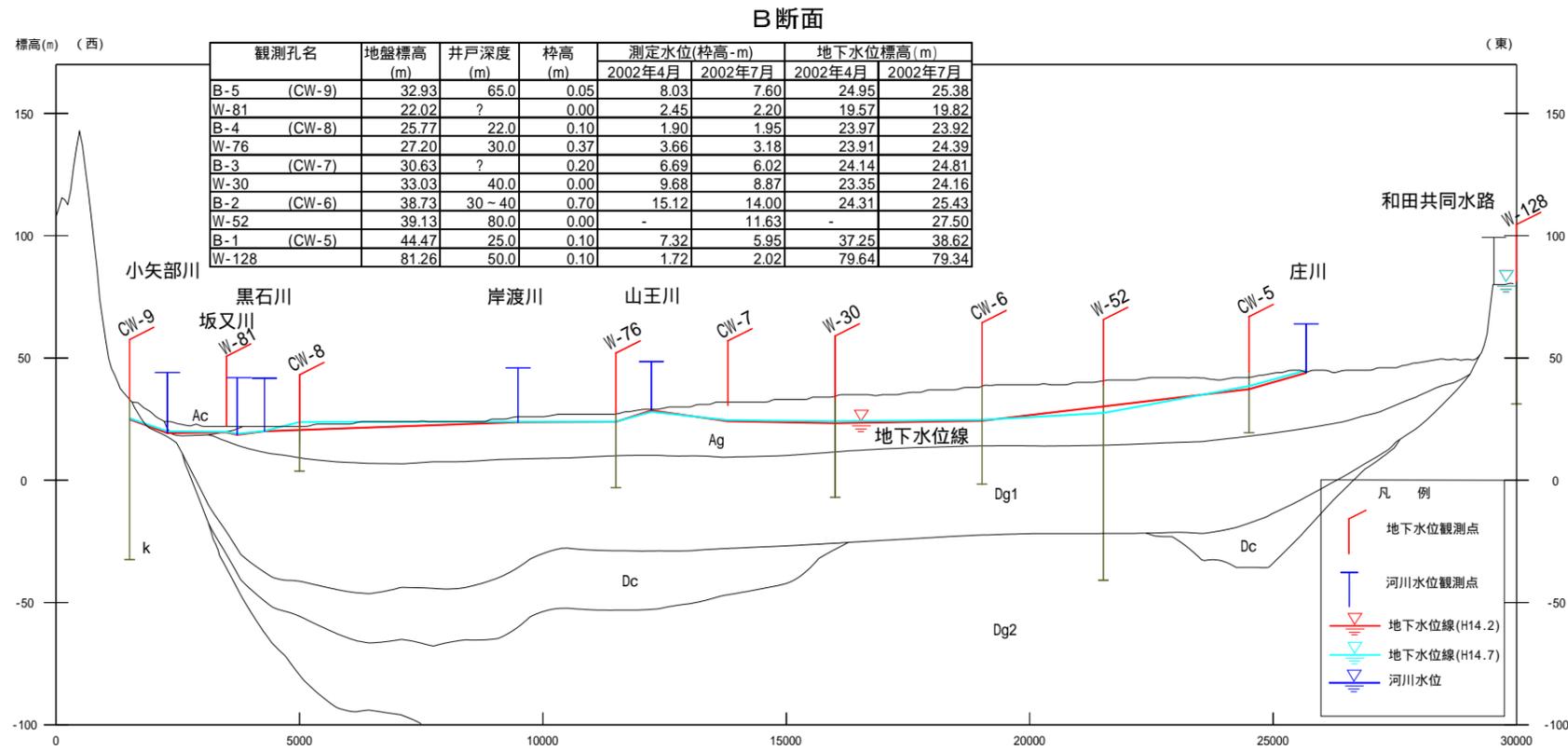
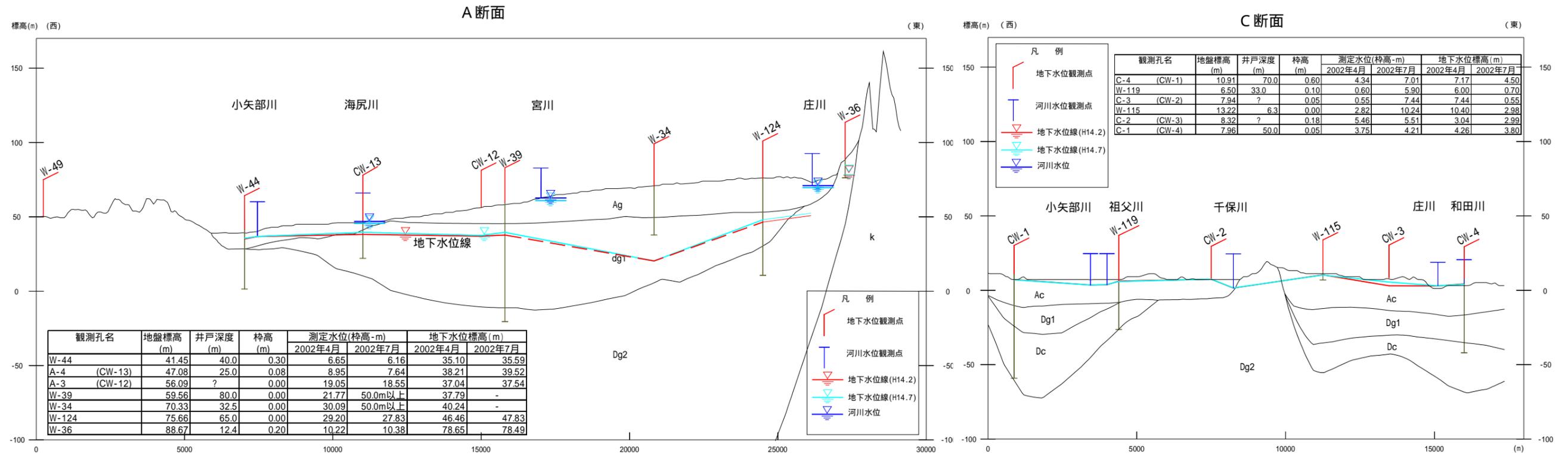


図 2-4-6 地下水横断調査結果